



週報

入間ロータリークラブ



2018-2019 RI 会長:バリー・ラシン RI2570 地区ガバナー:茂木正 会長:齋藤栄作 幹事:豊田義継

第 36 号 3067 例会 2019 年 3 月 28 日 (木)

< ❁ 会長の時間 ❁ > 齋藤栄作会長

本日は年度末月末の最終木曜日という事で大変忙しい会員の皆様も多いと思います。日本の多くの企業は 3 月が年度末で 4 月始まりという期を持つところが多いですね。



私の会社も例に漏れず 4 月が年度初めなので大変忙しい時期であります。

加えて 25 日から春休みなので街の景色が大きく変わっています。子供たちや親子連れが街に目立つ期間でもあります。会社でも交通事故には通常期よりも更にも増して注意する様にアナウンスしていますが皆さんも充分気を付けて下さい。

さて 21 日に桜の開花が宣言されました。今週末に向かって見ごろを迎えて行く予報ではありますが気温の関係で当初より少し満開日が遅くなるようであります。

25 日、月曜日には地区大会記念チャリティーゴルフ大会が本庄児玉インターチェンジから 10 分ほどのこだまゴルフクラブにて開催されました。入間ロータリークラブからは 4 名のエントリーでありましたが 2 名ずつに分かれて熊谷ロータリークラブの皆さんと組み合わせでした。チャリティーゴルフ大会ならではの組み合わせですが他のクラブの活動が勉強になります。熊谷ロータリークラブは創立 1953 年の老舗クラブで 90 名ほど会員を持つクラブです。

4 月には奈良京都の親睦旅行を企画しており吉野山に桜を約 50 名で新幹線を使い見に行くそうです。今年は特別な企画だそうですがその規模に驚きました。

日本古来、桜は人々の心を掴んで放しません。歌舞伎では梅が本来兄花と呼ばれていますが桜がどうしても主役となっています。あのソメイヨシノの淡い桜色、匂い、そして何よりパーっと咲いて潔く散ってゆくその咲きっぷりが古来より日本人から好まれる所以でしょう。

伊豆半島の寒桜、河津桜、最近では熱海桜等、早咲きの桜もあります。それは別の意味で春の訪れを予感するには良いのですがその咲く時期、色合い等どうも慣れ親しんだ桜とは別物です。

◎100%ロータリー財団寄付クラブの認証

◎100% Every Rotarian Every Year
クラブバナー受賞

上記 2 点の認証、バナー受賞を致しました。1 年度に年次基金への一人当たりの平均寄付額が少なくとも 100 ドルに達し会費を支払っているすべての会員が年次基金に 25 ドル以上を寄付したクラブに送られるものです。

<幹事報告> 豊田義継幹事

<報告事項>

1. 4月4日理事会と例会会場変更
会場;西山荘
理事会;11時30分～
例会;12時30分～13時30分
2. 5月8日四クラブ合同懇親会
会場;さくら 19時より 会長幹事出席
3. 2019～2020年度地区役員追加委嘱が
鈴木ガバナーエレクトから来ました。
職業奉仕委員会委員 細淵克則会員、以上
当クラブから7名の出向となります
4. 4月ロータリーレート 1\$110円

●委員長報告

<親睦活動委員会> 後藤健委員長

5月23日に日帰りの美術館バス旅行は
現在11名の参加となっており、大勢の参
加宜しくお願い致します。

<出席報告> 白幡英悟委員長

会員数	出席数	出席率	前々回修正率
45名	24名	58.53%	69.05%

事前欠席連絡 14名

<ニコニコBOX> 木下登SAA

★今年度入間 RC ラストスパートに入りました。
皆様例会の盛り上がり宜しくお願い
致します。

「齋藤栄作君、木下登君」

★長女に3月22日男子が誕生しました・
次女の嫁ぎ先の私立大分が春の選抜甲
子園で初戦を突破しました

「豊田義継君」

★先週の金曜日に次男のまさあきが幼稚園を
卒園しました。4月からピカピカの
一年生です。

「一柳達朗君」

本日¥7,000 累計¥739,000

●米山カウンセラー委嘱状授与 白幡英悟会員



●ポール・ハリス・ソサエティ入会 齋藤栄作会員



●転勤のご挨拶 佐藤輝武会員



本日、埼玉りそな銀行入間市支店より東松山支店の転勤辞令が出ました。新しい支店長が着任いたしましたら、改めてご紹介いたします。ロータリーでは大変お世話になり、また勉強させて頂きありがとうございました。

■回覧、配布物

- ①地区大会のご案内
- ②米山梅吉記念館 館報 Vol. 33
- ③入間市環境まちづくり Vol. 29
- ④4/16 入間南RC合同夜間例会出欠席表
- ⑤4/4 西山荘例会出欠席表
- ⑥5/23 山中湖・三島初夏の旅出欠席表
- ⑦他ロータリークラブ週報&例会変更
- ⑧入間クラブ週報 36号

■ 会員卓話「我等の生業」 ■

❖ 滝沢文夫会員 ❖

私の職業分類は不動産貸付、賃貸業です。土地や建物を貸し付けて賃貸料を頂いてそれを生業としています。一口で言ってしまえばこれ以上はありません。そこで、わが家が今なぜ不動産賃貸業を生業にしたかを話します。



話は昭和初期になります。そのころのわが家の当主は滝沢弁吉という者でした。わたしの曾祖父に当たる人物です。当時のわが家の根幹は製糸業でした。同業の石川家とはそれ以前からおつき合いがございました。製糸業は地元でとれた生糸を買い付け絹糸にして、海外に輸出して、海外からは綿糸を輸入してそれを近隣の農家や自前の工場で織物を織って商品として、その商品を販売するまでを行っていました。本店は所沢の金山町にありました。当時の所沢のいわゆる銀座通りは金山町にあり商店が軒を連ねていたようです。都内の日本橋や青梅、埼玉では大宮や蕨などにも支店を出していたようです。根幹の事業とは別に、良質の土が取れていたことから瓦を製造していました。また、繁田家とは黒須銀行の経営で一緒させていただいておりましたが、黒須銀行の瓦は我が家で製造した小谷田瓦です。前述の金山町の商店の屋敷や蔵の瓦にも小谷田瓦がたくさん使われていたようです。しかしながらもう新しい小谷田瓦の生産はしていません。なぜ生産を終了したのかといえば、それまで優良な土が取れていたものが、取れなくなってしまったからです。その瓦工場の先に製糸工場がありました。そのころ隆盛を極めていた石川組製糸にその工場を引き取っていただき我が家では製糸業から手を引きました。その工場はのちに石川組製糸の第5工場となり、現在の老人ケア施設の「マナ」になっているところです。曾祖父の弁吉は商売の一切を清算して引退をしてしまいました。



そのあとは祖父の勇助が当主になりましたが、ある程度の田畑・山林があり、これで生活が出来ていました。そのころは、まだ小作制度があり、米・麦・野菜等が手に入れることが容易でした。また、電機・ガス・水道等のインフラ設備は整っていないため、生活に薪を使っていたのです。山から杉、ヒノキを伐採して製材するとともに、雑木で薪材をとることもできました。これを利用して日々の生活をしていたのです。これはまだ戦前の話です。戦後に我が家が大転機がやってきました。農地開放政策です。それまで小作に耕してもらっていた田畑に大部分を失うことになってしまいました。父の代になると残る山林、田畑で農林業や製茶業を生業としていました。父の代ではまだ人件費は高騰していないため、林業は成り立っていました。今では林業を生業にするなど考えられないほどなのは、皆さんもお分かりのことと思います。農地でお茶を栽培して工場で製茶して販売することをしていましたが、余り面白くなかったのか、商売上うまみがなかったのかいつしかやめてしまいました。昭和30年後半くらいから日本は成長期になり、農地がどんどん無くなってきて、宅地化されてきました。田畑に家が建ち、アパートやマンションが建ち始めました。みんなが車を持つようになり駐車場の必要性が高まりました。また、バイパス道路が作られたりして、土地の買収につながり多少の恩恵にもあずかりました。これが、わが家が不動産賃貸業を生業とした理由です。

父の代までは、わが家の当主は「糸屋の旦那」と呼ばれていましたが、私が旦那と呼ばれたことはありませんし、これからは無いでしょう。もうそんな時代ではないのでしょうか。

さて、私の時代ですが、先祖の残してくれた土地に賃貸物件を建てたり、駐車場にするなどして賃料を頂く不動産賃貸を生業としています。いわゆる土地活用です。今考えなければならぬことは、残っている農地をどう活用するかです。ロータリーのメンバーの中にはいろいろな資格を持った人がいますので、アドバイスをいただきたいと考えます。どうぞよろしくお願ひします。

❀吉沢誠十会員❀

これと言って皆様にお伝え出来るような事ありませんので弊社の歴史を話させて頂き、お許しを頂きたいと思っております。



弊社は大正 14 年に初代祖父十吉が個人請負業として創業し、昭和 32 年に吉沢木工株式会社として法人化し、昭和 38 年に吉沢建設株式会社と名称を改め現在に至っております。木造建築から始め法人化した頃より二代目で父親である誠次が鉄骨造、鉄筋コンクリート造も手がける様になり、現在は総合建設業として建築一式・土木一式工事・不動産業を中心に事業を展開しております。

祖父十吉は明治 37 年生まれ、飯能の出身でありますが大工になりたくて黒須におりました森浜吉と言う棟梁に弟子入りし、縁あって浜吉の長女らくと結婚し独立したものです。浜吉は豊岡教会を手掛けた職人の名簿に載っていたり、今は無くなってしまいましたが霞橋のところにあった万世さんと言う大きな味噌屋さんの建物の上棟式では棟梁として写真に残っているようなそれなりの大工だった様です。らくの弟が大工になりましたが事業としてはうまくいかず今はその甥が森家を継いでいます。

二代目誠次は昭和 7 年生まれ、川越工業高校を卒業後弊社に入社し初めは大工をしていたらしいのですが、昭和 30 年前後より設計を手掛ける様になりました。当時ジョンソン基地の仕事にたずさわったことでアメリカンナイズした契約社会を経験し、このことが弊社の礎になったと聞いています。この頃今のジョンソントウンにありますアメリカ兵のハウスの建設も行い儲けたらしいです。

昭和 49 年のオイルショックで痛手を被ったものの、50 年代に入り経済の回復に伴い入間市でも人口増加が続きこの頃から市内の学校建築が盛んにおこなわれる様になりました。過去の経歴見ますと毎年学校を建てております。申し訳ないのですが豊岡地区の学校はほとんどと言っていい程です。いい時代ですね。入間市の発展と共に弊社も成長させて頂いたことと感謝しております。この頃は昼間は現場管理、夜は施工図書き、と昼夜を問わず働いたことで技術者も育ちました。今の現状は全く別な環境で技術者の不足、育成が今後どうなるのか本当に心配です。

さて三代目である私は昭和 63 年に入社しバブル期でありましたがまだペえペえで何が何だかわからない内にバブルが崩壊し良い時代を過ごしたという気持ちはあまりありません。でも今までなんとかこれまで皆さんのおかげで過ごさせて頂いたことに心から感謝をしております。頭も悪くこれと言って新しい事に挑戦することも出来ませんが、皆さんが何か必要なときにお答え出来る体制を作っていくことが地元で生きて行く建設会社の使命と思っております。それには先程も話しましたが技術者の育成が急務であります。今回西山荘ホールの例会と言うことで建築をさせて頂いた時の施工図をお持ちしました。設計図をもとにお客様、設計者の意図をくみ取り施工図を書き、職人さんと話し合いを持って良い建物を作れる現場監督。そんな技術者集団でいたいと考えています。

今回発表の機会を頂き会社ではなく自分自身の「生業」とは何かと言う事に自問自答させて頂きました。答えは明確にはありませんでしたが貴重な時間を頂いたことに感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。



発行 入間ロータリークラブ

- 事務所：〒358-0023 入間市扇台 3-3-7 ハイツ斎竹 101 号 Tel. 04-2964-1700 Fax. 04-2965-5788
- Email iruma-rc@jupiter.plala.or.jp
- 例会場：丸広百貨店入間店 6 F バンケットホール Tel. 04-2963-1111
- 例会日：木曜日 12:30~13:30 ■会報委員長：水村雅啓

